

同志社大学

2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年 3月 7日提出

所 属	職 名	氏 名
スポーツ健康 科学部	教授	田阪 登紀夫
研 究 題 目	卓球競技の競技力向上に関する研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>従来より、卓球競技の競技力の向上のため、種々の測定を実施し、検討を加えてきた。</p> <p>今年度は視点を変えて、他競技種目の陸上競技を題材にして、将来、男女マラソン競技記録の更新がどこまで可能か、また、女子マラソンの世界記録は男子マラソンの世界記録を上回ることができるか、そして三点法による解析の実用性についても検討した。[方法]男子マラソンの記録（1908～2014年）と女子マラソンの世界記録（1963～2003年）を対象に Richards 成長曲線の Gompertz 曲線への移行を明確化した成長モデル式を用いて三点法で当て嵌め、最小自乗法の理論値を算出した。[結果]男子、女子の記録は Monomolecular 曲線によくフィットした。[結論]三点法による成長曲線モデル式を用いた解析法は簡便で実用性が高く、将来展望を踏まえた指導法を考察していく意義が見出せることが示唆された。</p> <p>このことを第 70 回日本体力医学会大会（於和歌山県民文化会館）「将来女子マラソンの世界記録は男子の世界記録を上回ることができるか」の演題で共同研究で報告した。</p> <p>今後もさらに種々の測定を重ね、それらの成果を競技力の向上に役立てるとともに、授業等で広く学生にも還元していきたいと考えている。</p>	